

10月30日(土)・大会1日目 14:50~16:20 (組織論レビュー【7】会場) (90分)

●組織論レビュー セッション【7】

「マクロ現象としての『両利きの経営』とマルチレベル分析への展開」

* 塩谷剛（香川大学 経済学部 准教授）
岩尾俊兵（慶應義塾大学 商学部 専任講師）

* 代表報告者

[概要]

2000年以降、知の探索と深化を同時に追求する「両利きの経営／両利き経営(ambidextrous organization/organizational ambidexterity)」に関する論文発表数は、幾何級数的に増加し続けており、当該分野が世界の経営学研究の中でもいわゆる「ホットな領域」であることは間違いないだろう。しかし、こうした状況にありながら、両利きの経営概念の曖昧さや実証研究上の課題は、依然として未解決のまま残されている。そこで本報告では、「両利き経営概念の展開史」、「両利き経営実現のためのマネジメント方法」、「両利き経営の測定をめぐる問題・課題」といった視点から文献レビューをおこない、今後の研究の方向性として、「マルチレベルな両利きの実現に関する議論」と「マルチレベル分析による実証研究の蓄積」の必要性を示し、当該分野のさらなる発展のための礎とする。

[参加者へのメッセージ]

知の探索と深化の「両利き経営」は世界的流行の最中にあります。ただし、組織の中で探索と深化を「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」おこなうと効果的なのかという境界条件についての知見は未発達です。たとえば、しばしば両利き経営の「手法」のひとつとされる、組織全体で探索に集中する時期と深化に集中する時期とを切り替える「時間レベルの両利き」は、手法ではなくダイナミック・ケイパビリティを用いた組織変革の「結果」ではないでしょうか。

そこで今回、両利き経営の現在知を、個人から組織間関係までの「4レベルの両利き経営」として把握・統合し、両利き経営が真に有効なマネジメント手法になる道筋について議論します。